

国際協力特別賞

小さなことから

大船渡市立吉浜中学校 2年

菊地 留香

「アフリカでは一日に自分より小さい子供たちがたくさん亡くなっている。」そんな事を言われても、日本という豊かな国に生まれた私には想像がつかない。

アフリカの子供たちのために私は何ができるだろう。現地に行って病院を作るとか、多額のお金を届けるとか、中学生の私にはもちろんできない。でも、小さな事ならできるのではないだろうか。

例えば、食事を残さないこと。物を大切にすること。電気製品を使うのを少し減らしてみることなどだ。食べたくても十分に食べられない人がいる。衣類などは自分が着られなくなったらすぐ捨てるのではなく、誰かにあげたり、リサイクルショップに売ったりする。アフリカには、日本のような電気製品があるわけではないので、不便さを知ることも大切だと思う。

また、ペットボトルのキャップを集めたり、書き損じはがきを集めたりする活動もあった。ペットボトルのキャップや書き損じはがきは最終的にはお金に変わる。そのお金は、感染症のワクチンや給食費、えんぴつやノートなどの勉強道具になるのだそうだ。日常で見落としがちなことも、大きな支援になることがわかった。

私の学校では昨年、日本の絵本に外国語の文字が書かれたシールをはり、カンボジアなどの発展途上国に送る活動を行った。自分が小さな時に読んだことのある本もあり、外国の子供たちに読んでもらえるのは嬉しい気持ちになった。実際、子供たちはその本をボロボロになるまで読んでくれたという。食べ物や医療品以外にも、「子供たちに喜んでもらうこと」も支援になることを知った。

また、絵本を送る活動の主催者の方の呼びかけで、ネパールの病院に募金したお金を届けた。決して多いとは言えない金額だったが、その病院では、地震でけがをした人たちの入院費にあてられたり、「福祉ボランティア」というけがや病気の人たちを無料で診察する費用にあてられたりしたそうだ。自分の募金が、遠い外国で困っている人たちの役に立っていると考えると、なんだか心が温かくなるような気がする。また、その病院の先生からお礼の手紙をもらったそうだ。見返りを求めるのではなく、「ありがとう。」という一言や、

人々の笑顔が私たちの喜びになった。

「意識が変われば行動が変わる。」自分の日常生活の小さなことを見直すこと。これが中学生の私にでもできる支援なのだと思う。自分一人の力は小さいが、みんながそれをしたら大きな力になる。先進国の日本だからこそ、一人一人の意識が高くなれば、きっと大きな支援ができるはずだ。